

【近畿 ESD コンソーシアム・学生による ESD 活動書】
奈良市立ならやま小学校野外活動支援 活動報告書

英語教育専修 3 回生 河野 木香

1. 実施日 2022 年 6 月 23 日（木）

2. 場所 奈良市青少年野外活動センター

3. 参加者 音楽教育専修 4 回生 佐藤 ころろ
幼年教育専修 4 回生 井原 奈佑
音楽教育専修 3 回生 梅原 彩華
英語教育専修 3 回生 川口 綾菜、河野 木香、福西 隆生

4. 活動の概要

2022 年 6 月 23 日に奈良市青少年野外活動センターにて、奈良市立ならやま小学校 5 年生の野外活動が行われ、その支援を目的として本学ユネスコクラブの学生が参加した。活動支援の具体的な内容は、オリエンテーションの補助、キャンプファイヤーの準備・片付け、スタンプの実施などである。

5. 参加学生の学び・感想

私は、児童のそばにいることの重要性を学んだ。私は、野外炊飯の支援に参加するのは今回が初めてだった。そのため、活動に集中出来ていない児童にどのように声をかけたら良いのか分からなかった。そこで、児童のそばにいることを優先した。そうすることで、児童の思いについて聞くことができ、児童に寄り添った言葉を掛けることができた。この経験から、児童に寄り添い、思いを聞くことは、円滑に活動に参加させるために必要なことだと学んだ。今回学んだことをこれからの学生生活に生かしていきたい。

（音楽教育専修 4 回生 佐藤 ころろ）

今回私は、キャンプファイヤーのみの参加だったので、短い時間で子どもたちに楽しんでもらえるような関係を作らなくてはいけなかった。その為、空いている時間は子どもと積極的に話したり交流を持ったりすることで少しでも、「全力で楽しんでいいんだ」と思って貰えるように取り組んだ。キャンプファイヤーでは、子どもたち自信が盛り上げよう、楽しもうという空気が感じられ、それが出せる雰囲気作りというのが大切だと改めて感じた。

（幼年教育専修 4 回生 井原 奈佑）

私は、はじめての野外活動支援だった。私自身、小学校で経験したものの、支援する立場になると子ども達が迷子にならないか、怪我しないか、などハラハラが止まらなかった。しかし、子どもたち自身で様々なことに気付いたり、悩んだり、考えたりしながら協力して取り組む姿を見ることができた。私は大学の授業の関係上、前半部分のみの参加であったが、今までの子どもたちが培ってきた学校の学習から学んだ力を発揮する姿を見せてもらい、子ども達にやらせてみて考えさせることの大切さを学ばせてもらえる機会となった。

(音楽教育専修3回生 梅原 彩華)

今回の活動を通して、野外活動支援とは何かと考えさせられた。野活支援はあくまでもその日だけの支援であるため、自分は児童にとって信頼関係もない他人であるということを実感し、先生と児童の関係を壊さないように働きかけることが大切だと感じた。また、私は今回初めて屋外でのキャンプファイヤーを経験したのだが、出し物で上手く場を盛り上げることができなかった。児童にとって良い思い出となるよう、これから練習や経験を重ね、支援のあり方を模索していきたい。

(英語教育専修3回生 川口 綾菜)

今回の野外活動支援は、子どもたちのオリエンテーションの補助のみの参加であったが、子どもたちとの関わりのなかで学ぶことがたくさんあった。そのなかで、活動支援の立場として、子どもたちとどのような距離感で接するのが適切かを考えるきっかけとなった。子どもが積極的に話しかけてくれることはとても嬉しいが、一方で親しく話すことだけが支援ではなく、時には注意をするなど、状況に応じた適切な接し方を常に考えて行動する難しさと重要性を学んだ。一つ一つの支援活動から得られる学びや発見を大切に、今後の支援活動に活かしていきたい。

(英語教育専修3回生 河野 木香)

今回の体験は、自分の学生ボランティアとしての立ち位置について考え直す機会となった。本校の先生方が様々な仕事をこなされている中、自分もその一端になりたいと動いていた。そのあまり、自覚がないまま学生ボランティアの本分を超えた行いや注意をしたことがあった。「主役は子どもたち」、「学生ボランティアは先生ではない」という考えが身につけていなかった。改めてこの2点を念頭に置き、これからの支援活動に取り組むたい。

(英語教育専修3回生 福西 隆生)